

教職員等の支援者に対する人材養成事業（愛媛県四国中央保健所）

【概要】

管内の小・中・高等学校の養護教諭・保健主事等を対象に思春期のメンタルヘルス研修会を実施。児童生徒を直接支援する教職員等に対し、児童生徒から出されるSOSのサインや悩みをどのように受け止めるのか等具体的な専門的知識やスキルの向上を図ることを目的とする。これにより、教職員等の資質向上を促進し、若年層のメンタルヘルス対策につなげる。思春期世代の治療経験豊富な管内精神科医師及び公認心理師・臨床心理士による管内の現状を踏まえた具体的かつ実践的な研修となった。

【大綱の分類】

4. 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質向上を図る

【政策パッケージ分類】

基本2-3) 学校教育・社会教育に関わる人への研修

【事業実施年度】 2019 年度事例**【事業予算】** ￥59,676**【利点】**

- ▼児童生徒を直接支援する機会の多い養護教諭や保健主事を対象にすることで、小・中・高等学校における児童生徒のメンタルヘルスが向上し、延いては、自殺予防に繋げることができる。
- ▼セルフケア演習を盛り込んだ内容にすることで、児童生徒への支援だけでなく支援者である教職員自身のメンタルヘルス向上に繋がる。

【実施に至るまで】**実施に至る背景の概要**

- ①10代の自殺死亡者数は毎年0～数件程度と他の地域と比べて多くないが、思春期のメンタルヘルス対策は、これから青年期に至る自殺予防における重要な課題である。
- ②管内の養護教諭へのアンケートから、実際に児童生徒からのSOSのサインと思われる場面での対応に困った等の声もあり、小・中・高等学校における児童生徒の精神保健に関する身近な存在である養護教諭等の資質向上は重要。
- ③養護教諭等から他の教職員への波及効果も期待できる。

計画を立てる上での工夫

- ①事前にアンケートを実施し、学校現場での対応事例から対応困難な状況や理由を把握し、現場の養護教諭等に役立つ内容となるように工夫した。
- ②セルフケア演習を組み込むことで、教職員自身のメンタルヘルスにも繋がる内容とした。

具体的な内容**▼思春期メンタルヘルス研修会**

- ・対象：小・中・高等学校の養護教諭、保健主事等 53 名
- ・内容：管内精神科医師及び公認心理師・臨床心理士より、管内の思春期世代の精神科治療の現状を知り、セルフケア演習を通して実践的スキルを向上する。

【成果】

- ▼研修会参加者の97%が「理解できた」「まあまあ理解できた」と回答し、自由記載では、「演習が良いと思った。自分が体験・実感することで、相手の立場に少し立つことができると思った」、「自分でできそうなこと、参考にしたいことがあった」等、これからの業務に活用していきたいといった前向きな感想を多く得ることができた。
- ▼セルフケア演習を通して参加者自身のメンタルヘルス向上にも繋がった。
- ▼質疑応答の場面では、現在対応している事例の対応方法について具体的に学ぶ機会となった。

【補 足】

- ▼アンケート項目“児童生徒のメンタルヘルスに関して気になっていること”については、ゲーム依存に関することや、自己肯定感の低さや愛着障害と思われる事例について意見が挙がった。

【課 題】

- ▼学校現場での養護教諭等が困難を感じている場面を想定したより具体的な演習が必要。
- ▼今後は、事例検討会の開催等を通じたきめ細やかな研修が継続してできるかが課題である。

【事業種別】	研修実施
【準備期間】	約112日
【人 数】	講師2人（参加者は53人）
【人口規模】	県人口1,317,859人（管轄自治体人口86,073人）
【財政規模】	644,000,000千円
【自治体負担率】	50%（地域自殺対策強化事業交付金）
【事業対象】	小・中・高等学校の養護教諭・保健主事等
【支援対象】	児童・生徒
【委託の有無】	無し
【実施主体・問合せ先】	愛媛県東予地方局健康福祉環境部 四国中央保健所保健課精神保健係 TEL：0896（23）3360 Mail：shikoku-hoken@pref.ehime.lg.jp

【参考資料・文献】

- ▼特になし